

見える化通信

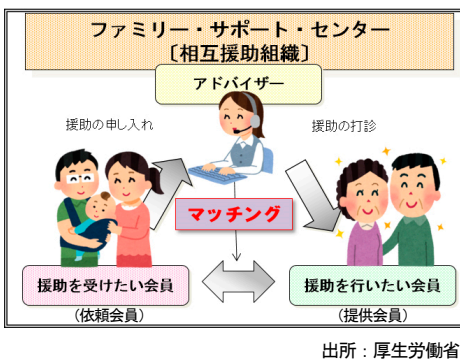
地域がつながる子育て支援 ファミリー・サポート・センター事業の充実を



ファミリー・サポート・センター事業は、地域の住民が子育てを助け合う会員制の活動です。安全面での不安の声もありますが、政府も安全対策を強化しています。地域で子育てをする意識の高まりも期待できることから、今後も安全対策やマッチングの場で不安を解消しながら、事業を推進していくことが求められます。

電機連合 総合産業・社会政策部門

■図表1 ファミサポの仕組み



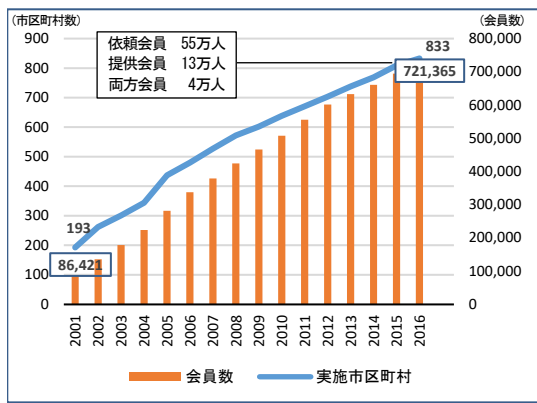
子育ての援助をお願いしたい場合、まず住んでいる地域のセンターで日時やサポート内容の希望を伝え、会員登録を行うことが必要です。登録を行うと、ファミリーサポのアドバイザーが希望に合う提供会員を見つけ、事前打ち合わせ(マッチング)を行います(図表1)。マッチングでは利用頻度や時間帯、移動手段、食事の有無や子どもの健康状態について詳細を詰めていきます。

利用の流れ

ファミリー・サポート・センター事業(以下、ファミサポ)をご存じですか? 地域において子育ての援助を受けたい人(以下、依頼会員)と、子育てを協力したい人(以下、提供会員)が会員となって助け合うもので、市区町村が事業を行います。全国890の市区町村(2018年度)で実施されており、保育施設への子どもへの送迎、放課後や急用時の預かりなどのほか、地域によっては病児・病後児の預かりや夜間・早朝の預かりにも対応しているところもあります。

ファミリー・サポート・センター事業とは

■図表2 ファミサポの実施市区町村と会員数の推移



両方会員とは、依頼会員と提供会員の両方で会員になっている人をいう。
出所：厚生労働省資料より電機連合作成

一方、政府の安全対策も前進しており、万が一の事故の場合に備えた補償保険加入のほか、提供会員に対し一定の養成講

マッチングにより両者が合意すればサポート開始となり、必要ときに提供会員に連絡してサポートを依頼します。実際の預かり後は提供会員に報酬を支払うこととなりますが、料金は自治体ごとに異なり、1時間あたり500〜900円が主流となっています。

安全対策の進展

実際にファミサポを利用した依頼会員からは「残業や出張の日も預かってもらえるので安心して仕事ができる」、「引越してきた当初は地域に知り合いがいなくて不安だったが、提供会員に助けられた」といった声が、また提供会員からは「子どもの成長を見るのが楽しい」、「子どもの笑顔が元気の源になっている」との声もあります。ファミサポは、地域のつながりが希薄化する中であって「地域で子育て」、「地域による見守り」の充実につながることを期待されており、事業の推進にあたっては、今後も不安解消に努めていくことが求められます。

地域で子育て・地域で見守りの充実に期待

このように安全対策は前進していますが、事故防止に関する講習の受講が5年に1度で適切かどうかなど懸念は残ります。電機連合では突然の事故や災害が発生した場合の対応をまとめた緊急時ガイドライン策定、安全対策研修のさらなる強化を求めるとともに、マッチングの機会を多様に提供して会員の不安軽減を図ることを提言しています。

電機連合の取り組み

座とAED等を使った救命救急講習を受講することを義務付けています。さらに2019年度からは事故防止に関する講習について、少なくとも5年に1度必ず実施するようファミサポの実施要項を改正しました。改正された実施要項には提供会員向けに、家庭内の危険な場所への対策を示したチェックリストが付けられており、安全対策をより強化したものとなっています。